新春メッセージ

市民から市民へ

国際ソロプチミスト芦屋会長・江崎　由佳

空高くはばたけ芦屋

震災の年の十月、芦屋に移り住みました。

この美しい気品に輝く、でも震災のために活力を失ってしまった街に、微力であっても私なりに何か役に立てないかと思いました。

ちょうどそんな時、国際ソロプチミスト芦屋の認証を知り、即座に入会しました。

国際ソロプチミストは、管理職として活躍する女性、専門職を持つ女性で組織する世界最大の奉仕団体で、アメリカで創設されて以来八十年余を数えています。

真摯なる友情、奉仕の貴さ、誠実な職業、同士愛等を理想とし、和やかに楽しみながら活動を重ねて参りました。

芦屋クラブは、今年十期目を迎えます。この十年間のささやかな私たちの足跡として、車椅子搭載ワゴン車、南芦屋浜総合公園にシンボルツリー、市内八校の小学校に図書寄贈、環境保全活動、福祉施設への支援などが挙げられます。また、十年間の集大成として、さらなる芦屋の復興を期して「一・一七あしやフェニックス基金」の提案をいたしました。

あの大震災の経験と教訓を継承していくため、災害ボランティアや被災体験を語り継ぐ活動を支援していくという基金です。私たちの寄贈した二百万円を原資として、市民から寄付を募り、市も一千万円を拠出して運用するという計画が市議会で可決され、動き出しました。

今後、この基金が皆さんの復興活動を支える一助になりますよう、さらにそうした活動が発展し、国際社会にも目を向けていくことができれば幸いです。

国際ソロプチミスト芦屋では、昨今の不穏な社会情勢の中、次代を託す子どもたちの安全を守るために、市立小学校に監視カメラ「安心モニタ太郎」を設置する記念事業を現在計画しております。私自身、これらの活動を通して自らを高めていきたいと強く願っているところです。

恒例となりましたガレージセールは会員持ち寄りの品の販売で毎回市民の皆さまのご協力を得、貴い活動資金とさせて頂いています。

また、今年四月二十五日には帝国ホテル大阪で、芦屋在住の炎の人・星野仙一氏の講演会を開催します。

まだまだ模索しながら歩む私たちではありますが、西年（とりどし）にちなみ心を合わせて、空高く羽ばたきたいとの想いを強くしております。

●江崎 由佳（えざき ゆか）氏

国際ソロプチミスト芦屋会長（二〇〇四～〇五年期）。

昭和二十年（一九四五年）、神戸市生まれ。昭和四十九年、大阪で、ラジオテレビコマーシャル・広報番組・映画・ビデオ等の録音業務一般を取り扱う「大貫スタジオ」を設立し、代表取締役社長に就任。

平成三年、ラポルテ本館にジュエリーショップ「マリー・クレール」を開店、現在に至る。

平成七年十月より芦屋市在住。

富田砕花顕彰会会長・辻本　勇

「芦屋文化」の顕彰と継承を！

「盧屋川や高座川の上流の方で山崩れがあったらしく、阪急路線の北側の橋のところに押し流されて来た家や、土砂や、樹木が、後から後から山のように積み重なってしまったので、流れが其處で堰き止められて、川の両岸に氾濫したために、堤防の下の道路は濁流が渦を巻いて、場所に依っては一丈ぐらいの深さに達し、二階から救いを求めている家も沢山あると伝ふ」

これは昭和十三年に起きた「阪神風水害」の場面を描写した芦屋川の洪水の有様で、谷崎潤一郎の代表作『細雪』の一説であるが、実はこの一文は詩人足立巻一氏が、開森橋東詰に建っている『細雪』記念碑のために抜粋されたもので、碑の裏面に刻まれている。前面には谷崎松子夫人の優美な書体で『細雪』の二字。この文学碑の建立には、文学を愛し文化を重んずる芦屋市民のエネルギーの発動があった。　二十年前の昭和六十年、芦屋市制四十五周年記念事業として、ルナ・ホールに谷崎松子さんを迎え「細雪のつどい」が開かれた。松子夫人より、芦屋に住まれた頃の懐かしい思い出と文豪谷崎が芦屋の風光を大変に愛されていたことのお話があり、それに加えて翌年が文豪の生誕百年に当たるとあって、急遽「谷崎潤一郎『細雪』文学碑建立実行委員会」が組織され、私が推されて委員長役を引き受けた。その折、芦屋川と高座川の合流点で、文学碑にぴったりの巨石が発見されたのは、奇跡的な偶然であった。短期間に、実に大勢の人の情熱が盛りあがり、翌年の春、桜満開の芦屋川畔で文学碑の除幕式が挙行できた。あの日集まった人々の、晴れやかな笑顔を忘れることはできない。

この時から、私は芦屋の文化行政に関わることとなり、個人的にも芦屋の文化に深い興味を抱いてきた。

文豪谷崎のほかにも、画家の小出楢重や詩人・富田砕花など、芦屋を愛した文化人は相当に多い。

先に述べた詩人足立巻一の遺志をついで「富田砕花顕彰会」の代表も引き受けた。市の財政難から、今年の「富田砕花賞」存続は危ぶまれたが、市民の寄付に支えられ、何とか実施することができた。

芦屋という土地の最大の魅力は、そこに住む人によって醸される文化の香りではないだろうか。それもかなり上質のものだ。住民として、そこに誇りを持ちながら、文化の香りの質を落とさないよう努めていきたい。私は芦屋が好きだ。

●辻本 勇（つじもと いさむ）氏

大正十一年（一九二二年）奈良県生まれ。富田砕花顕彰会会長、芦屋市文化振興財団副理事長、芦屋文化友の会会長。

昭和四十九年、同郷の陶工・人間国宝富本憲吉の記念館設立。富本憲吉記念館館長ほか、サンドライビングスクール社長、ルーブル書店社長に就任、現在に至る。著書に「富本憲吉と大和」「近代の陶工・富本憲吉」「富本憲吉著作集」「富本憲吉陶磁文様集」など。

平成九年・芦屋市民文化賞、十三年に兵庫県功労者表彰。

庭園都市をめざして

「庭園都市」宣言から1年

ガーデニングから始めよう！

問い合わせ　みどりの課　☎㊳2103

芦屋市では「庭園都市」実現に向けて、さまざまなアクションプログラムの構想を持ち、市だけではなく市民の皆さんのご意見や、先進都市での取り組みを勉強しながら、芦屋ならではの「庭園都市」を作るべく第一歩を踏み出しています。

緑の相談所・花と緑の講習会などをご活用ください

「庭園都市」実現に必要なものは、まず経験です。失敗を恐れずガーデニングから始めてみましょう。ガーデニングに失敗はつきもの、とにかく土に触れ、植物に触れてみましょう。わからないことがあれば、緑の相談所をご利用ください。

さらに興味のあるかたは「花と緑の講座・講習会」への受講をお勧めします。ガーデニングに正解はありません。自分で育てた経験によって正解に近い回答が得られます。そこで得た回答をみなさんに知らせ、仲間を増やしていきましょう。

住民組織育成助成金制度・苗圃（びょうほ）

住民組織育成助成団体と交流を深め、仲間を増やし、街を美しく飾ってみませんか。花苗を育てるための苗圃（苗木・苗花を仕立てる苗床）の利用者も募集していますので活用してください。

コンクールへ応募しましょう

美しく飾られた街並みや庭園、花壇（個人・団体問わず）などを写真に残して「あしや花と緑の会」写真コンクールに応募しましょう。

写真は記録になりますので、成功例と失敗例は必ず撮り、メモなどを添えておくと、さらに有効です。

この経験こそが、ガーデナーの財産です。花づくりは仲間づくりといわれます。実際、植物にまつわる話題は季節を伝えるのに良い手段ですし、自分や仲間とともに街を飾るのは素晴らしいことです。

美しい街並みや庭園を見ますと、そこに住んでいる人となりが想像できます。庭とは、ガーデナーそのものです。それは実際に経験した人にしか作れない空間であり、またその土地を良く知るということです。

書物通りに模倣するのは簡単ですが、やはり実践で得た経験に勝るものはありません。

「庭園都市」アクションプログラムは、まだ歩み出したばかりです。市民の皆さんの参画により「庭園都市」は実現化していきます。

「庭園都市・芦屋」を歩けば、そこに住む人や文化などが想像できるのです。

●緑の相談所　☎34-0031
毎週 水・金曜日と第1・3月曜日の午前9時～正午開所